ISSN: 2189-793X

Amami Station, International Center for Island Studies, Kagoshima University

とうしょけんぶんしつ

島嶼研分室だより

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室

No. 8
2019 年 3 月

企画紹介・・・

鹿児島大学重点領域研究（島嶼）シンポジウム
奄美群島における産業の振興―現状・課題・展望―

山本宗立（やまもとそうた）
（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター准教授）

2019 年 2 月 2 日（土）に鹿児島大学重点領域研究（島嶼）シンポジウム「奄美群島における産業の振興―現状・課題・展望―」を奄美市 AiAi ひろば 2 階で開催した。平成 31 年度は奄美群島振興開発特別措置法の制定から 64 年が経過し、13 回目の法延長の時期を迎える。さらに、LCC の就航等、奄美群島への入り込み客も増加し、産業界にとっては新たなビジネスチャンスを迎えている。そこで、平成 26 年度～平成 30 年度の奄美群島振興開発計画の「振興開発の基本的方針」として重要視されている農業、水産業、紬・糖・焼酎産業、情報通信産業に着目し、奄美群島の産業の現状や課題を把握し、今後の展望について考える場として、本シンポジウムを企画した。

まず、鹿児島大学農学部の山本雅史教授は、奄美群島における果樹生産の現状および課題、今後注目される果樹について紹介したあと、奄美群島の果樹産業の展望として、①秋冬季温暖な気候を有効に活用、②現在の主要果樹、新規果樹、固有の在来カンキツ類のバランス、③他地域では生産が困難な果樹の生産を推進、④果実を原料とした加工品の開発、⑤島の魅力・文化の発信、などを重要視する必要があるとした。

次に、鹿児島大学水産学部の鳥居享司准教授は、鹿児島県の離島における水産業の重要性や水産資源の利活用の事例を紹介したあと、販売チャネルの確立が離島の共通の課題としてあげられると述べた。今後の奄美群島の漁業経営を考える上で、①島内市場では島内異業種との連携、②島外市場では販売力のある民間企業との連携などが重要であるとした。

そして、鹿児島大学法文学部の山本一哉教授は、奄美群島の地理的・経済的条件、人口動態、基幹産業の変遷を紹介したあと、奄美群島の経済や産業の振興として、①海外も含めた積極的な市場開拓、②地産地消、奄美群島全体での域内分業、モノ・カネの域内循環の促進、③雇用創出・所得分配が大きい伝統産業（大島紬）の復活、④移住者の取り込み、⑤新しい基幹産業の育成が重要であると述べた。

最後に、鹿児島大学学術情報基盤センターの升屋正人教授は、奄美群島におけるブロードバンド整備状況や情報通信基盤の利活用の事例を紹介したあと、その現状と課題として、①官民のキーパーソンの活躍により利活用は進んでおり、人が人を呼ぶ、よい循環になりつつある、②しかし、仕事を持ってきても働き手がいない、③若者は仕事がないと思っているかもしれないため、「仕事はある」ことをわかってもらう必要がある、などがあげられるとした。

総合討論では、奄美市の東美佐夫副市長より、各発表に対してコメントをいただいたあと、奄美群島における産業の振興には、やはり「人」、そして「人」と「人」とのつながり（ネットワーク）が重要であること、また産学官が連携して奄美群島の産業の振興に貢献すべきであることが確認された。研究者の成果を地域に還元するために、このようなシンポジウムを定期的に開催し、奄美群島の方々と大学の研究者らとの交流の場をより一層増やすことが必要であろう。

パネルディスカッションの風景
（2019 年 2 月 2 日）

薩南諸島における研究の紹介

奄美群島におけるゴマダラカミキリ被害の対策と奄美大島の小蛾類の多様性

坂巻祥孝（さかまきよしたか）　(鹿児島大学農学部准教授)

奄美群島の喜界島と徳之島では、2008-9 年ぐらいから島特産のかんきつ樹がゴマダラカミキリの加害により枯れはじめ、数年で廃園になる園地も認められるようになった。従来から生息している在来のオオシマゴマダラカミキリは、めったにかんきつ樹を加害することがなかった。我々のグループがこの虫の遺伝子を調べたところ、九州本土にいるゴマダラカミキリが島に侵入して混血することで、混血のゴマダラカミキリ類がかんきつ樹を加害するようになったことを 2015 年頃に突き止めた。同時に、この混血ゴマダラカミキリの防除対策として、殺虫剤をまくのではなく、ゴマダラカミキリ類を病気にするカビ（日本在来）を繁殖させたシートを集落中の総てのかんきつ樹に巻くことで、撃退できることを喜界島で示すことができた。現在は徳之島でこの殺虫シートの効果を検証中だが、ハブが多い徳之島では藪に生えているかんきつ樹にまで殺虫シートを巻き付けることができないため、対策は一進一退を繰り返している。

ところで、この殺虫シート作戦で群島を訪れるついでに、私のもう一つの専門である小蛾類の採集を行ってきた。小蛾類の中で特に私が注目しているのは翅を広げても 10-15mm 程度の“キバガ上科”で、「奄美群島は昆虫が多様である」といわれながら、これまであまり分布記録がない虫であった。奄美大島の小学校の先生で精力的に蛾を採集している方との共同研究で大島産の小蛾類のサンプルを分析した結果、従来奄美大島から 41 種しか知られていなかったキバガ上科の小蛾を 92 種に増やすことができた。このように数年で倍増させられたことから、奄美の小蛾類の多様性がまだまだ未解明であることを感じ取ることができた。しかし、この 92 種にはまだ学名の付いていない種も含まれており、サンプルを追加して新種として記載するまでの研究も、まだまだ続けなければならない。

2018 年に奄美から新種記載した
フェルマータヒゲナガキバガ(スケール：5mm)

奄美群島徳之島の海底遺跡調査

新里亮人（しんざとあきと）（平成 29 年度鹿児島大学国際島嶼教育研究センター客員研究員／伊仙町教育委員会学芸員）

遺跡は、陸上だけではなく、海底や湖底、あるいは川底でも見つかることがある。港跡や沈船はその代表例だ。実は奄美群島の徳之島でも海底遺跡が見つかっており、徳之島３町（徳之島町・天城町・伊仙町）は連携して近海の調査を進めている。

海底遺跡は、考古学の専門家が実際に海に潜り、目視によって初めて確認されるが、海は陸地よりもはるかに広いので、やみくもに潜るだけでは遺跡は見つからない。そこで３町の担当者は、次の手順で海底遺跡に関する情報を整理し、遺跡がありそうなポイントを絞り込むことにした。①漁協・ダイビング業者へ聞き取りを行ない、海中に残された文化財の目視情報を集める、②郷土史料や民俗伝承から港や船舶に関する情報を整理する、③海岸域を歩き回り遺物の散布状況を把握する、④情報が多いポイントでの潜水調査を実施し、発見した遺物の位置情報を海面で取得する、⑤以上の成果を総括し、収集情報を地図上に記し、港との関連が想定される陸上遺跡（窯業生産跡、城館跡など）の分布状況と重ね合わせる。

試行錯誤の結果、海にまつわる歴史情報は徳之島町山・南原、天城町平土野・松原、伊仙町面縄の沿岸域に多いことがわかったので、平成 29 年度よりそれぞれの海域の地形的特徴を明らかにするため、海底の測量調査を行なうこととなった。調査ではマルチビームソナーという機材を用い、実際に目視確認された鉄製の錨の発見箇所を完成した海底地形図上に反映した。船の停泊に用いる錨は、裾礁の割れ目に分布しており、昔の船乗りたちは船底が岩礁に接触しない程度の水深がある海域を狙って船を泊めていたことが想定された。

古い船舶に関連する資料のさらなる発見を目指すべく、海底調査は今後も継続される予定である。完成した海底地形図は遺跡範囲を確定する際の資料として用い、また漁船やレジャー船の航行の安全に役立てられるよう積極的に活用されることとなっている。

面縄港発見の四爪鉄錨（よつづめてつびょう）

奄美分室の活動報告（2018 年 9 月～2019 年 2 月）

＜シンポジウム・講演会等＞

・鹿児島大学重点領域研究（島嶼）シンポジウム

「奄美群島における産業の振興 ―現状・課題・展望―」

2019 年 2 月 2 日（土）、AiAi ひろば 2 階にて

中継：鹿児島大学総合教育研究棟 5 階国際島嶼教育研究センター会議室

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

共催：奄美市、奄美群島広域事務組合

後援：日本島嶼学会

講演：「奄美群島における果樹産業の現状と未来」　山本雅史（鹿児島大学農学部）

「奄美群島の漁業の今後を考える」　鳥居享司（鹿児島大学水産学部）

「奄美群島の基幹産業を考える―紬・糖・焼酎産業―」　山本一哉（鹿児島大学法文学部）

「奄美群島における情報通信基盤整備とその利活用」　升屋正人（鹿児島大学学術情報基盤センター）

コメント　東　美佐夫（奄美市副市長）

奄美群島を支える農業、水産業、紬・糖・焼酎産業、情報通信産業に関する現状や課題、今後の展望について各研究者から発表がなされた。質疑応答では島民の方々から多くの質問や意見をいただき、発表者も含め多様な関係者にとって今後の奄美群島の産業の在り方を考える場となった。詳しくは 2 ページを参照されたい。

シンポジウム「奄美群島における産業の振興 ―現状・課題・展望―」の様子（2019 年 2 月 2 日）

・H30 年度鹿児島大学生物多様性シンポジウム

「奄美群島の海と川の生き物たち―未来に残したい宝物―」

2019 年 2 月 16 日（土）、AiAi ひろば 2 階にて

主催：鹿児島大学「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究基盤整備」プロジェクト

共催：奄美市、奄美群島広域事務組合

後援：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、奄美市教育委員会

講演：「奄美大島におけるリュウキュウアユの生活史」　久米 元（鹿児島大学水産学部）

「奄美・加計呂麻で出会う干潟の底生生物」　山本智子（鹿児島大学水産学部）

「奄美大島で見つかる多様なサンゴ群集」藤井琢磨（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

「奄美群島の海藻・海草類」　寺田竜太（鹿児島大学連合農学研究科）

「奄美群島の魚たち」　本村浩之（鹿児島大学総合研究博物館）

「奄美群島のエビ・カニ類」　鈴木廣志（鹿児島大学水産学部）

4度目の開催となった生物多様性シンポジウムが、今年度は水生生物をテーマに開催された。島には世界的に貴重な水生生物資源があることを異なる生物を専門とする6名の研究者が紹介し、保全や活用などの議論を行うためには更なる基礎的調査を行う必要性があることの説明等に満場の聴衆らが聞き入った。

シンポジウム「奄美群島の海と川の生き物たち―未来に残したい宝物―」の様子
（2019年2月16日）

＜セミナー・観察会等＞

・第8回奄美の生物多様性観察会「奄美群島の植物教室」

2018年9月15、16日（土・日）宇検村湯湾岳にて、11月10、11日（土・日）瀬戸内町油井岳にて
2019年1月19、20日（土・日）奄美市住用町にて
主催：鹿児島大学「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」プロジェクト
後援：奄美市奄美博物館、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
講師：鈴木英治（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

1年間を通し実施された「奄美群島の植物教室」。後半では復習クイズや湯湾岳登山を行なった。座学では図鑑づくりを目標に撮影した写真の見直しや整理を行うことで、植物についての知識を深めてもらった。

油井岳にて観察会の様子
（2018年11月11日）

住用川周辺にて観察会の様子
（2019年1月19日）

・おしごとテーマパーク・わらぶっくわ横丁「鹿児島大学島嶼研奄美分室」

2018年11月18日（日）、奄美市長浜みなと公園/観光船バースにて
主催：鹿児島県建設協会（奄美支部）、奄美市
共催：鹿児島県大島支庁、鹿児島県建設協会、鹿児島県建設協会青年部奄美支部
後援：キャタピラー九州、コマツ建機販売、三栄重車両、東洋リース、丸平リース工業、丸親、南九州川崎建機

子供向けお仕事体験コーナーにて、先史学、分類学、動物行動学の簡易な研究を子供たちに体験してもらった。各回、定員を超える参加者が集まった。研究体験以外でもポスターや標本などの展示物への興味も集まり、盛況に終わった。

おしごとテーマパーク出展ブースの様子
（2018年11月18日）

・奄美市まなび・福祉フェスタ「鹿児島大学島嶼研『出張研究室』」

2019 年 2 月 24 日（日）、奄美文化センターにて

主催：奄美市、奄美市教育委員会

後援：南海日日新聞社、奄美新聞社、あまみエフエムディ！ウェイヴ、アマミテレビ、大島教育事務所、県立奄美少年自然の家

「出張研究室」として鹿児島大学や島嶼研の紹介コーナー、奄美で行われている研究やそれによって得られた標本に触れる体験コーナーを設けた。今年は天候にも恵まれ、大人から子供まで、多くの来場者がスタッフの説明に興味深く耳をかたむけたり出版物を手に取ったりしていた。

まなびフェスタ出展ブースの様子
（2019 年 2 月 24 日）

・奄美分室で語りましょう（島嶼研勉強会）

第 22 回：2018 年 9 月 11 日（火）17:30～18:30、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室にて
話題：「人と自然の調和した環境創りを目指して―小島嶼地域を中心に―」
西本希呼（京都大学人間・環境学研究科／H30 年度鹿児島大学島嶼研客員研究員）

第 23 回：2018 年 11 月 11 日（日）18:00～19:00、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室にて
話題：「世界最大のナマコが島にいる?!―棘皮動物のはなし―」　小渕正美（真鶴町立遠藤貝類博物館）

第 24 回：2018 年 12 月 12 日（水）18:00～19:00、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室にて
話題：「『島の鳥類学』のおもしろさ―南西諸島、特に奄美群島の鳥類に着目して―」
水田　拓（奄美野生生物保護センター）

不定期開催で、研究者や一般市民が飲み物片手に肩肘張らずに集い語らい、教養を深める場として開催している小規模勉強会、「奄美分室で語りましょう」。2018 年度後半期は、文化から動物の生態まで幅広い話題にも関わらず、多くの知的好奇心にあふれた島民が参加し、どの回も盛況であった。

・島嶼研研究会ネット中継会

島嶼研郡元キャンパスで定期開催される研究会のインターネット中継を行っている。2018 年 9 月から 2019 年 2 月の間に計 5 回開催された。

＜その他＞

・職場体験実習への協力

奄美市立住用中学校　1 名
大浜海洋公園と奄美分室にて
2018 年 9 月 26（水）－27 日（木）

鹿児島県立大島北高等学校　1 名
大浜海浜公園と大和村山間部にて
2019 年 2 月 6（水）－7 日（木）

中学生職場体験の様子
（2018 年 9 月 26 日）

高校生職場体験の様子
（2019 年 2 月 7 日）

＜奄美分室関連新聞報道記事（平成 30 年 3 月～平成 31 年 2 月）＞

2018 年 3 月 4 日　奄美新聞 p9「鹿大プロジェクト生物多様性シンポ　植物や森林生態系学ぶ」
2018 年 3 月 4 日　奄美新聞 p9「SFTS ウイルス見つからず　島嶼研勉強会奄美のマダニも研究」
2018 年 3 月 10 日　奄美新聞 p8「希少サンゴの北限記録発表　豊かな海洋生物多様性示す」
2018 年 3 月 10 日　南海日日新聞 p1「希少サンゴの群集見つかる　分布の最北限記録に」
2018 年 3 月 26 日　南海日日新聞 p19「奄美を歩く 9 島のシンボル　クロウサギ数奇な運命」
2018 年 3 月 31 日　奄美新聞 p8「ゴカイ、身近に感じて　パンフ無料配布開始」
2018 年 4 月 1 日　南海日日新聞 p8「奄美・沖縄諸島先史学の最前線発行　出土品から見る奄美の環境と人の暮らし」
2018 年 4 月 1 日　奄美新聞 p9「希少サンゴの群集見つかる　大島海峡分布の最北限記録に」
2018 年 4 月 2 日　奄美新聞 p1「歴史に学ぶ『環境文化型』　狩猟採集自然との調和で 5 専念も続く」
2018 年 4 月 3 日　奄美新聞 p1「最新の研究成果など紹介　『奄美・沖縄諸島先史学の最前線』刊行」
2018 年 4 月 6 日　南日本新聞 p15「奄美の先史探る　狩猟・採集生活最新研究を解説」
2018 年 4 月 13 日　南海日日新聞 p9「吸血害虫ヌカカ被害相次ぐ　奄美大島、加計呂麻島など」
2018 年 4 月 13 日　南海日日新聞 p8「奄美の植物相知る一冊　『奄美群島の野生植物と栽培植物』」
2018 年 4 月 25 日　奄美新聞 p9「河内川での個体数減危惧　鹿大島嶼研・研究会リュウキュウアユ生態や保護取り組みなど講演」
2018 年 4 月 27 日　奄美新聞 p1「瀬戸内町内の海に“珍客”　『リュウグウのツカイ』稚魚」
2018 年 5 月 3 日　奄美新聞 p8「植物の研究成果紹介　『奄美群島の野生植物と栽培植物』」
2018 年 5 月 9 日　奄美新聞 p1「修正し再提出すべき　環境省、関係機関と協議へ　県事業の一部に影響も」
2018 年 5 月 10 日　南海日日新聞 p1「新種『ニゲミズチンアナゴ』　大島海峡で発見、研究者ら発表」
2018 年 5 月 10 日　南海日日新聞 p7「書評　奄美・沖縄諸島　先史学の最前線」
2018 年 5 月 10 日　南日本新聞 p24「奄美にチンアナゴ新種　大島海峡で捕獲」
2018 年 5 月 11 日　奄美新聞 p1「新種のチンアナゴ発見　大島海峡『環境が豊かで多様性高い』」
2018 年 5 月 15 日　奄美新聞 p3「学際的研究の成果を収録　論文集『奄美・沖縄諸島先史学の最前線』」
2018 年 5 月 20 日　奄美新聞 p1「多様な植物、見て触れて学ぶ　鹿大奄美文頭の植物教室スタート」
2018 年 5 月 20 日　南海日日新聞 p8「『奄美群島の植物教室』始まる　鹿児島大学主催」
2018 年 5 月 25 日　南海日日新聞 p4「文芸游歩　研究者の調査結果に心躍る場面も『奄美・沖縄諸島先史学の最前線』
2018 年 5 月 27 日　奄美新聞 p9「奄美の動植物も発表　薩南諸島の生物多様性研究成果」
2018 年 6 月 22 日　南海日日新聞 p4「文芸游歩　古代奄美の人と植物との関わりを知る　『奄美群島の野生植物と栽培植物』」
2018 年 6 月 2 日　沖縄タイムス p19「古き島の暮らしひもとく　奄美・沖縄諸島先史学の最前線」
2018 年 8 月 23 日　奄美新聞 p1「鹿大島嶼研分室を移転　9 月一般会計 5 億 3758 万円追加」
2018 年 8 月 23 日　南海日日新聞 p1「鹿大拠点施設を整備　奄美市市議会に議案送付」
2018 年 10 月 11 日　南海日日新聞 p8「紬美人の英大生が研究発表　織物の染色技術テーマに」
2018 年 10 月 18 日　奄美新聞 p9「戦争遺跡の活用発表　韓国での国際学術大会瀬戸内町からも参加」
2018 年 10 月 18 日　奄美新聞 p8「ひとつなぎの自然大事　鹿大島嶼研・藤井特任教授が講演」
2018 年 10 月 22 日　南海日日新聞 p9「世界へ発信できる　戦跡の調査・活用を報告」
2018 年 10 月 21 日　南日本新聞 p18「奄美の海の多様性語る　大島高で藤井助教」
2018 年 11 月 6 日　奄美新聞 p9「半川遺跡の学術調査スタート　鹿大島嶼研分室・龍郷町で」
2018 年 11 月 13 日　奄美新聞 p9「堅果類伴う土抗や石器出土　半川遺跡の学術調査終盤」
2018 年 11 月 15 日　南海日日新聞 p9「縄文時代の集落遺構あり　洗骨の始まり示す遺構も」
2018 年 11 月 16 日　南海日日新聞 p9「島の職場を体験しよう　おしごとテーマパーク」
2018 年 11 月 27 日　奄美新聞 p9「早期の普及啓発活動評価　奄美海洋生物研究会　日本サンゴ礁学会保全奨励賞を受賞」
2018 年 12 月 25 日　奄美新聞 p1「回顧 2018　自然・文化　世界自然遺産登録再推薦へ」
2019 年 1 月 1 日　奄美新聞 p21－22「鹿大島嶼研奄美分室・学術調査　龍郷町半川遺跡再調査が実現」
2019 年 1 月 25 日　奄美新聞 p9「与論独自の土器群報告　城跡、調査・研究の課題も」
2019 年 2 月 3 日　南海日日新聞 p10「資源と文化結び付けて　鹿大教授ら“群島の価値”に提言」
2019 年 2 月 3 日　奄美新聞 p9「奄美の産業　研究者が現状・未来分析　『有望種も』『販売・生産性向上』『海外開拓を』」
2019 年 2 月 17 日　奄美新聞 p9「多種多様生態系の保全重要　水生生物の研究成果報告　鹿大シンポ」
2019 年 2 月 17 日　南海日日新聞 p9「知識深め正しい保全を　奄美市で生物多様性シンポ」

＜奄美分室来訪者数＞

のべ 151 名（2018 年 9 月 1 日～2019 年 2 月 28 日）

～学生島体験！vol.8～
「奄美大島を訪れて」

吉良（きら） 友祐（ゆうすけ） （鹿児島大学大学院理工学研究科博士前期課程一年）

湯湾岳山頂部の林内の様子

私が卒業研究のために奄美大島を初めて訪れたのは 2017 年 5 月のことだった。フェリーを降りたのは早朝で日も昇っていないため肌寒く感じた。しかし、日が昇ると肌を刺すような日差しと蒸し暑さから奄美大島に来たんだなと実感できた。

私の調査地は奄美大島最高峰の湯湾岳（海抜 694 m）の山頂部である。奄美大島ではこの地域を含む森林地域が奄美群島国立公園に指定されており原生的な自然が残っている。調査では、湯湾岳の山頂部に 100 m 四方の方形区を作成し、この範囲内で確認できた樹木の種名、幹の太さ、階層等を確認し 1 本ずつ記録していった。調査をしているとイジュやミヤマシロバイなど本土ではお目にかかれない種などを見ることができる。調査地は低地に比べると暑くはなく、むしろ山頂に近いため林内にはさわやかな風が吹き込んでくる。しかし雨が降ると体感気温がグンっと下がる。森の中に入るとどうしてもハブの存在が気になってしまう。これまでの調査ではハブには 1 度も出会わなかったが、ヒメハブは見ることができた。

2018 年は、屋久島で調査をしていたため、奄美大島を訪れる機会に恵まれなかった。しかし、本稿執を執筆している 2018 年末の現時点では、翌年 2 月に再び奄美大島での調査が控えている。2 年前に比べて私も多少は植物に詳しくなった。訪れる場所は同じだが見える景色はきっと違うだろう。

お知らせ

島嶼研奄美分室は 2019 年 3 月末をもって下記住所へ移転することになりました。新拠点でも、これまでどおり、地域に根差した研究活動はもちろん、奄美関連図書の公開や島民向けの勉強会、鹿児島市での研究会中継も行われますので、気軽にお立ち寄りください。

〒894-0068
鹿児島県奄美市名瀬港町 15-1
奄美群島大島紬会館 6 階

電話、FAX 番号など連絡先に変更はありません。移転先地図など詳細は右記 Web ページにも近日中にアップロード予定です。

島嶼研分室だより No. 8

平成 31 年 3 月 25 日発行
鹿児島大学
国際島嶼教育研究センター奄美分室
〒894-0032
鹿児島県奄美市名瀬柳町 2-1
TEL: 0997-69-4852 FAX: 0997-69-4853
E-MAIL: amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp
http://cpi.kagoshima-u.ac.jp/AmamiStation/

表紙写真：沖永良部島のユリ畑。産業にも島ごとに特色があり、沖永良部島では花卉栽培が主要産業の一つ。
（撮影：2017 年 4 月 30 日、藤井琢磨）